

ステークホルダーとのSDGs取り組みを

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

1. 取組概要

栃木県で8月26日に開通となったLRTですが、新たなインフラの登場により交通環境が大きく変わり、事故の一層の発生が想定されます。弊社ではそういった事故を減らすべく、車載器を参加者に配り安全運転につながるイベント「セーフティドライブコンテスト」を開催しています。

また、自社によるSDGsへの取組みのみならず、様々な業種のお客様と接点のある弊社では、弊社の保険契約者でなくてもご利用いただける、「SDGs経営簡易診断サービス」を提供しています。

2. 取組のイメージ

【セーフティドライブコンテスト】

弊社の自動車保険でも使われている車載器をコンテスト参加者に配布し、参加者の運転挙動から出された運転スコアでランキングを競っていただくコンテストです。また、車載器の運転データを活用し交通量実態調査など地域課題の解決につなげることもできます。福井県での弊社の取り組みが評価され、冬のDigi田甲子園で内閣総理大臣賞受賞に至りました。



【SDGs経営簡易診断サービス】

SDGs経営に取り組みたい法人様（19業種対応）にご利用いただける、「SDGs経営簡易診断サービス」を提供しており、「SDGs経営簡易診断結果報告書の作成」「SDGs専門家によるオンライン面談」など各種サービスを無料で行っています。

サービス名	SDGs経営簡易診断サービス
ご利用可能な方	製造業、建設業、流通業、サービス業、飲食業、小売業、不動産業、金融業、教育業、医療業、福祉業、情報通信業、運輸業、宿泊業、娯楽業、その他

サービス概要	
サービス名	SDGs経営簡易診断サービス
ご利用可能な方	製造業、建設業、流通業、サービス業、飲食業、小売業、不動産業、金融業、教育業、医療業、福祉業、情報通信業、運輸業、宿泊業、娯楽業、その他
サービス内容	SDGs経営簡易診断結果報告書の作成、SDGs専門家によるオンライン面談
サービス期間	SDGs経営簡易診断結果報告書の作成は、お申し込みから1週間以内、オンライン面談は、お申し込みから2週間以内

お申し込み方法

専用サイトへアクセス
https://sd-sdgs.com/ips

社務コード
2024500

必要事項を入力
お申し込みの必要事項を入力し、必要事項が正しく入力されていることを確認してください。

お申し込み完了
お申し込み完了後、SDGs経営簡易診断結果報告書の作成とオンライン面談の予約が完了します。

3.取組が開始されたきっかけと経過

学校などでもSDGsに関する授業が行われている今日、次世代を生きる企業となるためには次世代を担うSDGsネイティブの世代に選ばれる企業となる必要があると思われます。

弊社では、自社のみならず、自社のステークホルダーである企業の皆様がそういった次世代に選ばれる企業となるべく、多方面に協力をいただきつつ本取り組みに至っております。

4.取組の普及啓発

社員自らの取り組みをもちろんのこと、弊社商品の販売を委託している代理店・扱者の皆様や、自治体の皆様に、ドライブコンテスト・診断サービスの推進へご協力いただいております。

5.取組期間

6か月（ドライブコンテスト）

6.応募した取組の今後の計画・展開

今後より一層SDGsの取り組みを行っていくうえで、弊社としてできることをステークホルダー以外にも知っていただき、「輪」の構築を図っていきたいと考えております。そのためには、ドライブコンテストのような弊社の持つ交通データを活用し、その内容をより知っていただくこと。体感いただくことを計画しております。

更には弊社のデータなどの「解決策」を知っていただくことはもちろんのこと、地域において私たちに解決できるものがないか「課題」を見つけ論議をしていく取り組みも今年4月から始めており、後々はそういった取り組みを自社内に限らず、一緒に複数企業・団体で取り組んでいければと考えております。

7 該当するゴール

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



LRT開通を、弊社車載器を活用したコンテスト実施により応援しています。

11 住み続けられるまちづくりを



テレマティクス技術・データを活用し、地域交通の課題解決などにつなげる取り組みを行っています。

17 パートナシップで目標を達成しよう



自社のみならずステークホルダーを巻き込み、当該取り組みなど様々な取り組みを行っています。

地元農産物をたくさん食べて！

宇都宮農業協同組合

1.取組概要

地域の農業発展と安心・安全な農産物の安定供給を担うＪＡうつのみやは、農産物を通じこどもの貧困対策支援や食育に取り組んでいます。特に最近増加している「こども食堂」へは令和元年から支援を開始していますが、活動が盛んな「昭和こども食堂」では、運営上の課題をともに解決することをモットーに、令和３年から、①当ＪＡ直売所利用による食の全面支援（代金キャッシュバック）、②ＪＡ女性会（農家のお母さん）による調理ボランティア（毎月１回：農産物提供～メニュー考案～調理）、③ＪＡ青壮年部（若手農家）による旬農産物の提供などＪＡ・農家一体的な年間を通じた支援を行っています。これによりＪＡと昭和こども食堂それぞれの目的や課題等を解決し継続性のある取組みとなっています。

2.取組のイメージ

（女性会による調理ボランティア）



（青壮年部による農産物提供）



（こども食堂スタッフのＪＡ直売所買い物風景）



3.取組が開始されたきっかけと経過

こどもの貧困や孤食が問題視されていることをきっかけに、「食」を扱うJAとして、管内のこども食堂への支援を検討しました。あまり間口を広げず継続性を念頭に、「昭和こども食堂」を選定し、現状・課題などをともに検討のうえ支援体制を構築しました。

「食育」、「継続性」、「効果的」をキーワードに無理せず、可能な範囲での取り組みとなったことで、特に調理ボランティアを担う女性会では、達成感、協同の輪精神の醸成など好評な取り組みとなっています。

JA直売所利用についても、「必要なもの」を購入し、キャッシュバックすることで活動費の補填や支援物資ロスの圧縮にも繋がっていると聞いています。

4.取組の普及啓発

管内の農家組合員や住民向けにJAの月刊広報誌やHP等で活動内容を周知しています。

また、プレスリリースにより報道関係にも積極的に発信しています。

記事を見て個人的な支援につながったことも多々あり、住民の理解促進とこども食堂への支援の輪が広がっています。

5.取組期間

約4年 か月

6.応募した取組の今後の計画・展開

今後は、「昭和こども食堂」への協力は現状のまま継続します。

現在も、管内の他のこども食堂からの協力要請もあり、旬野菜の提供を単発的に行っていますのでこれも継続します。

「食育」を基軸に将来的にも国産・県産・宇都宮産の農産物消費と「味覚・記憶」をこどもの頃から醸成するなど、管内の農業の発展にも寄与していきます。

7 該当するゴール



J A 直売所利用による農産物の安定支援をしています。
(年間 20 万円分利用)



こども食堂の運営支援をしています。
(調理ボランティア：年 12 回)



将来を見据えた食育をしています。
(地場農産物、季節・郷土料理の提供、食育漫画毎月提供)

地域農業の理解と発展を目指そう！

宇都宮農業協同組合

1.取組概要

J Aうつのみやでは、地域住民を対象に、「J Aくらしの活動」に取り組んでおり、①親子向けの「アグリスクール」と②女性向けの「女性大学」を毎年実施しています。アグリスクールでは定植～収穫までの農業体験を行い、今年で11年目となりました。去年は延べ202人の参加で、毎年多数の応募をいただいています。女性大学は年3講座を開催し、園芸教室、地元農産物を使用した調理教室やフラワーアレンジメントなど農業・生活・文化活動を行い、去年は24名の受講生となりました。これらの活動を通じ、農業への関心や地元への愛着、コミュニティづくりに貢献しています。

2.取組のイメージ

(アグリスクールの活動風景)



(女性大学の活動風景)



3.取組が開始されたきっかけと経過

J Aでは直売所運営や、学校給食への農産物の提供による食育活動などを行っていましたが、もっと直接的に農業の魅力や楽しさ、管内の農産物がどのように作られ、食卓に並ぶのか、過程も知ってもらいたい、農業を通じて地元への愛着や心の安らぎに繋げていきたいとの思いから活動を開始しました。アグリスクールでは当初は収穫体験が中心でしたが、農業への更なる理解深化と参加者の声も踏まえ、播種～管理～収穫の各過程の体験、J Aの施設見学（選果場など）など大好評となっています。女性大学での園芸教室も人気であり、農業への関心が年々高まっていると感じています。

5.取組期間

アグリスクール：約11年 か月 女性大学：約11年

4.取組の普及啓発

募集の段階から、HPをはじめ、地域住民向け広報誌（新聞折り込み）で案内しています。

活動内容は、管内の農家組合員や住民向けにJ Aの月刊広報誌やHP等で活動内容を周知しています。

また、プレスリリースにより報道関係にも積極的に発信しています。

6.応募した取組の今後の計画・展開

令和5年度もすでに活動が始まっています。

①アグリスクール9体験（80人定員）

②女性大学3講座（受講生19人）




今後も充実した体験ができるよう継続していきます。

7 該当するゴール



地域住民を対象に募集し活動しています。
(4年度：アグリスクール延べ202人、女性
大学24人受講)



	地域住民を対象に募集し活動しています。 (4年度：アグリスクール延べ202人、女性 大学24人受講)		
			
			

こども食堂での調理ボランティア

宇都宮農業協同組合女性組織

1.取組概要

地域貢献活動に積極的に取り組むため、昭和こども食堂へ献立の提供および調理ボランティア活動を行っています。活動は毎月第4月曜の午後、女性組織会員2名がボランティアで調理を行い、夕食を提供しています。献立は家庭料理や行事食等を事前に女性組織で考案し、こども食堂に提供しています。

2.取組のイメージ



3.取組が開始されたきっかけと経過

きっかけは元より当組合が関わっている地域のこども食堂での支援を通じ、こども食堂で調理ボランティアが不足している実情を知り、女性組織に協力要請がきたことです。会議にて調理支援活動を打診、支部で協議し、全体の合意を得て活動を開始しました。

4.取組の普及啓発

多くの方に活動を知ってもらえるよう新聞や広報誌、雑誌等で発信を続けています。

5.取組期間

2年 1か月

6.応募した取組の今後の計画・展開

今後も長く継続していけるよう無理のないよう会員の負担を考慮しながら活動していきます。また、J A 各組織と連携をしながら、協力できることを考え、検討していきたいです。

7 該当するゴール



あたたかい料理を通して様々な事情を抱える親や子の心の貧困を減らせるよう、調理ボランティア活動を行っています。



食材費の負担や農産物の提供、調理ボランティア等 J A 各組織が協力してバックアップし、こどもの栄養状態維持に尽力しています。



旬のものや地元の野菜を使いバランスの良い食事を提供することで、地域の親子の健康維持を心がけています。

環境出前授業「地球温暖化と再生可能エネルギー」

特定非営利活動法人うつのみや環境行動フォーラム・再生可能エネルギー部会

1.取組概要

特定非営利活動法人うつのみや環境行動フォーラムは、宇都宮市環境学習センターの指定管理者として施設の企画運営にあっています。再生可能エネルギー部会は、本フォーラムに所属する部会で、栃木県の再生可能エネルギーの普及に向けて市民とともに学び発信していきとうと2012年に設立されました。現在、部員は14名で、企業のリタイア組（技術職）が中心で活動を進めています。再生可能エネルギーの調査研究を進める中で、宇都宮市における課題抽出、改善計画、そして宇都宮市への提言（2017年）も行いました。一方、子どもたちへの環境教育こそ重要であるとの認識にたち、2019年小学校高学年を対象にした実験体験を重視したプログラムを開発し実践してまいりました。本プログラムの有効性を評価いただき、受講生は累計2,000名（2023年度末計画）まで増やすことができました。

2.取組のイメージ

テーマ：地球温暖化と再生可能エネルギー

内容：第1部講義（25分）PPTを使用し、地球温暖化の仕組み、それに対処する再生可能エネルギーを学びます。

第2部実験体験（30分）6つのテーブルに8種類の再生可能エネルギーを準備、体験してもらいます。

第3部工作体験（30～60分）太陽熱風車やソーラーカーづくりを一人ひとり体験し、試運転を行います。

進め方：先方からの申込みで、事前の現地確認を行い実践しています。（費用：無料）

スタッフ：毎回9～10名のスタッフが現地に入り、指導をしています。



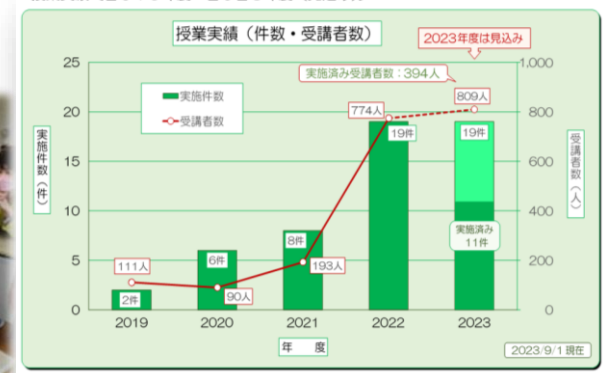
講義風景



実験体験



ソーラーカー工作



3.取組が開始されたきっかけと経過

- ・2050年カーボンニュートラル社会実現は、国、県、宇都宮市で宣言されたものの、市民の実行動につながっていないと感じていました。
- ・今の小学生は、2050年には40代となり社会の中核をなす世代です。この世代こそ再生可能エネルギーの重要性を自分ごととして捉えて欲しい。
- ・親世代にも伝えてもらうため、授業の終わりには手作り資料を渡しています。
- ・環境出前授業としては後発であったため、実験体験とコミュニケーションを特徴にプログラムを立案、事後アンケートにおいても評価をいただいています。
- ・まず私たちの活動を知っていただくことから始めました。宇都宮市及び上三川町の小学校校長会や放課後子ども教室コーディネーター会議に出席をさせていただき説明をさせていただきました。また新聞にも取り上げていただきました。

5.取組期間

3年11か月

4.取組の普及啓発

- ・私たちの調査研究成果を「栃木の再生可能エネルギーの現状と課題」として宇都宮市環境学習センターに常設展示し市民への普及に努めています。
- ・小学校低学年からの要望に応えるため「紙芝居」を使った講義も取り入れました。
- ・出前授業を知っていただくため、下野新聞の取材受け、ミヤラジ出演など実施中。
- ・「チャレンジもったいない」や「もったいないフェア」などで実験展示を行っています。
- ・宇都宮市の環境出前講座に登録するとともに、チラシ「出前授業無料で承ります」を作成し機会を捉え配布しています。

6.応募した取組の今後の計画・展開

1) 内容の充実

- ・出前授業の実施先である学校の先生やスタッフとの事前事後のコミュニケーションを図り、改善に努めていきます。
- ・助成金（県・宇都宮市・セブンイレブン記念財団）をいただき実験器材の充実に努めており、今後も助成金などを活用し内容の充実につとめていきます。






2) 活動領域の拡大

- ・要望により小学校低学年及び幼稚園児むけに「紙芝居」によるお話しを開発し、活動領域を拡大します。
- ・2022年度、2023年度宇都宮大学小中学生向け「3Cキッズカレッジ環境講座」に参画しました。今後も大学との連携を深めていきます。
- ・2023年度シニア向け環境出前授業（市民大学、東生涯学習センター）を実践し、良い感触を得ました。高齢化の進む宇都宮市においてもシニア向けの環境教育の意義は大きいと認識し強化していきます。

3) 広報活動の強化

- ・2023年度広報用ビデオを制作しHPにアップしました。今後もSNSを活用し広報活動を強化していきます。
- ・チラシ、新聞、ラジオなど広報媒体を活用し、出前授業の認知度を高めていきます。

7 該当するゴール

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>学校の授業では体験できない実験体験を通して、地球温暖化防止の重要性を学ぶことができる。 (2023年度末累計受講生2000名計画)</p>		
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>20%しかない再生可能エネルギーの比率を高めることの重要性を学び、身近にできる節電の重要性を認識できる。</p>		
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>2050年カーボンニュートラル社会の実現の重要性を知り、そのためにやるべきことを学ぶ。</p>		
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>脱炭素先行地域に選定された宇都宮市はカーボンニュートラル社会の実現を目指しており、その背景を学ぶ。</p>		
 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>出前授業は、子ども・先生・親御さんと連携して進めており、再生可能エネルギーの重要性を共通認識できる。</p>		

特許取得の快適布マスクでSDGs チャレンジ

有限会社倉谷製帽所／おまかせ屋

1.取組概要

- オリジナルTシャツ工場だからこそ作れた「発明奨励賞・特許取得の快適布マスク」です。何度も繰り返し使える布マスクの普及で、使い捨てマスクごみ量を減らす活動に貢献します。
- ①【表面に速乾性素材と内側にオーガニック綿の特性に合わせた**マスク素材の組み合わせ**】
⇒優しい肌触り・呼吸がしやすくなります。
 - ②【耳に優しい丸ヒモを使用し、特殊な結び方で器具を使わず**無段階調節ヒモ**】
⇒耳が痛くない・ストレス軽減など健康的な生活を提供します。
 - ③【1枚から全体にフルカラー印刷可能マスク、オリジナルマスク製造の**革新的印刷技術**】
⇒マスクを使用しなければならない方々にも、オシャレで楽しいマスク生活の提案します。

2.取組のイメージ

コロナ流行でオリンピック延期により、6Lや7Lサイズなど外国人向大きな速乾性ドライTシャツの在庫が大量に残ってしまいました。それをマスクという必需品へと作り変え販売したところ、当時のマスク難民にとっても感謝されました。しかしこのマスク生産はシンプル構造なので他社でも可能ですが、類似品や安売りなどされてはマスク機能の品質が保てないので、2022年2月に特許を取得しました。

技術の経済的効果については、使い捨てのマスクの方が一見安価ですが、洗濯して繰り返し使えるマスクの方が結果的に安価になります。ゴミ焼却費などの削減にもなります。

地球環境面を考えれば、毎日使い捨てマスクの大量廃棄は大きな問題であります。社内ではこの布マスクを100日間以上使用して毎回洗った後にはどんな変化が起こるか実験していましたが、特にマスクには大きな変化なく、形状を保ちながらずっと使い続けられていました。このマスクを使えば使うほど焼却ゴミによる二酸化炭素排出量が減る事によりSDGsに貢献できます。特に海へ流出してしまう大量なマスクごみ量を減らす活動にも大きく貢献できる。

安全性や環境保全等の社会的効果についても、「農薬や化学肥料に関する基準を守って栽培されたコットンであること」を認証機関から認められたオーガニックコットンガーゼを正規ルートで購入しマスク製造しています。地球環境や人間に対して優しく安心・安全です。

「布マスクでSDGs チャレンジ」

1日でも使い捨てマスクを使わない日があれば

マスクごみを**1枚**減らせます。
10日で**10枚**、1ヶ月で**30枚**
10人で10日使えば**100枚**
100人で10日使えば**1000枚**
1万人が10日使えば**10万枚**
大量のマスクごみが減らせます

こんなSDGsへの取り組みなら、
どなたでもできそうです。

3.取組が開始されたきっかけと経過

2020年2月。当時マスク不足で店の前には大行列ができ、マスク価格も高騰して、仕方なくマスクを何日も使い続ける状況でした。

企業はマスクを買い集めると今度は個人が手作りマスクを作りはじめ、生地やヒモまで在庫不足して、粗悪品も販売されていました。

東京五輪延期や行動制限で、弊社倉庫には特大Tシャツの大量在庫、何か活かせる方法はないかと思案しました。人気の速乾性ドライTシャツをマスクサイズに裁断から始まりました。何度も試作品を作り、素材、形状、縫製方法、調節ヒモの結び方、子供から大人の顔サイズ、装着時の感想、プリントデザイン、100回以上繰り返しの洗濯など、「打つ手は無限の精神」の安心安全で繰り返し使えるマスクを研究開発した結果、お客様に満足頂けるマスクが完成しました。

5.取組期間

3年 6か月

4.取組の普及啓発

◎2020年7月29日 下野新聞
「真岡鐵道SL 布マスク販売」

◎2021年9月25日 産経新聞
「ミセス栃木がデザインでコラボ
Tシャツ素材で布マスク作製」

◎2022年4月20日 下野新聞
「特大サイズ布マスクで
春日野部屋力士応援」

◎2020年7月29日 産経新聞
「車いすバスケットチーム選手に
快適な布マスク提供」

◎テレビショッピングBuzz Trigger
「あなたの悩みを解決してくれる
おまかせ快適布マスク」

6.応募した取組の今後の計画・展開

この度、弊社のこの布マスクが「令和5年度関東発明表彰にて**発明奨励賞**」を賜りました。

我々はSDG s の考え方にも賛同し、持続可能な社会づくりにモノづくりで貢献します。

【社会性】人にも環境にも優しいものづくりを目指し、「**布マスクでSDGsチャレンジ**」は社会貢献します。

誰もがマスクごみを1枚でも少なくできるように布マスクを普及活動を続けます。

【国際性】日本製にこだわった特許布マスクとして**安心安全で快適な布マスク**を広めたいと考えています。

海外のブランドメーカーにも認められるような品質サービスの改善してゆきます。

【将来性】**鼻を出して布マスクをつけたまま寝る**ことで、鼻呼吸から熟睡率と睡眠の質が向上の実験中です。

睡眠質向上の有効性について、今後医大教授と組んで、科学的・医学的にエビデンスを報告します。




内側にオーガニックコットン使用
**おまかせ
快適布マスク**
「印刷可能マスク」
特許商品
優しい肌触り 耳が痛くない 息がしやすい
表面さらさら ポリエステル100%
内側ふわふわ オーガニックコットン100%
耳が痛くない特殊加工なので快適
コットン素材の丸ヒモは長さ自由に調節可能

【布マスクのススメ】
12 責任ある消費と生産
14 海の豊かさ
マスクのゴミを減らす為に
人と地球に優しい布マスクを使う



2020年に15億枚以上の使い捨てマスクが世界中の海に廃棄されたと推定されると発表した。世界市場調査報告書のデータによると、昨年世界中で生産されたマスクは合計520億枚。これを踏まえると、少なくとも約3%のマスクが海に流れている計算になる。重さにするとも4680～6240トンにもなる。

7 該当するゴール

	特許取得や発明奨励賞のこの布マスクは使用される方へ快適なマスク生活を提供		
	使い捨てマスクごみ減量を意識する方が増え、水中生物や地球環境の悪影響軽減		
	睡眠時に布マスクを装着することで、鼻呼吸が優先し、睡眠の質の向上を調査研究		

環境保全とまちづくり

シーデーピージャパン株式会社

1.取組概要

人材派遣業を行っているシーデーピージャパン株式会社は脱炭素社会の実現に向け、本社社屋照明のLED化、社有車の電気自動車導入の設置、ゴミの分別化、まちづくりにおける清掃活動を行い、自社における二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいます。

- ※地域環境・・・クリーンアップ大作戦と題し、年に2回宇都宮市ランドマークの清掃活動
- ※環境保全・・・電気自動車・本社社屋内LED化・ごみ分別

3.取組のイメージ

宇都宮城址公園
クリーンアップ大作戦



八幡山公園
クリーンアップ作戦



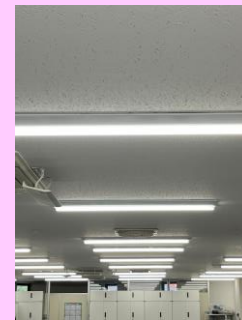
社有車電気自動車導入



社内普及・啓蒙活動
掲示板による見える化



本社社屋及び広告看板
全面LED化完了



3R推進
減らそう
繰り返し使おう
活かそう



3.取組が開始されたきっかけと経過

2021年4月、経営会議の下部組織に「サステナビリティ推進委員会」を設置し、同年6月「CDPサステナビリティ・ビジョン2030」の策定を、まずは当社が目指すビジョンを達成するための重要課題（マテリアリティ）を特定し取り組みを本社社屋にて開始しました。

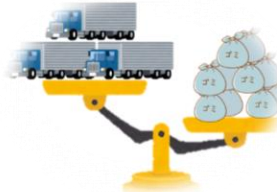
取組開始後

（経済産業省のコスト削減効果シミュレーションを基に算出）

ごみ排出量は1580トン ⇒870トン

電気使用量は79,044.00 kwh⇒32,220.00 kwh

CO2排出量は6Kg-CO2/kWh⇒2Kg-CO2/kWh⇒削減量47%



5.取組期間

2年 6か月

6.応募した取組の今後の計画・展開

サステナビリティ推進委員会を中心にマイボトル・マイ箸・エコバックなど繰り返し使えるものを積極的に使用していることを社内に発信し、社内全体で取り組んでいく。

また、マイボトル、マイ箸等の個人での推進活動を宣言（マイ〇〇宣言）し、オンラインミーティングなどの背景に設定することで意識を高めていく。



更に取り組みを強化し本社社屋でのゴミ排出量、電気使用量、CO2排出量を削減していく。

その中でも、カップラーメンやお弁当など毎日の食事が出るプラスチックごみの『洗ってリサイクルへ』が現在取り組みとして不十分な為、社内全体でリサイクルへの意識を持つことでCO2排出量を削減していく。

また、今後は本社のみではなく各営業所へ普及活動を行っていく。

全国13営業所でもクリーンアップ大作戦を実施し、環境保全活動（地域清掃等の活動）を推進していく。

4.取組の普及啓発





サステナビリティ推進委員を設置し、社員の中心となりクリーンアップ運動に参加すると共に、本社所属各部署から推薦または立候補により参加者を募り社内の環境問題への意識を高めています。

更に、掲示板への掲載により本社のみでなく、各営業所へも取組の普及啓発を行っております。

◎ 本社共有部へ掲示
社員が全員見られる
環境を構築



7 該当するゴール

 <p>4 質の高い教育を みんなに</p>	研修を通して普及啓発しています。 (R4年度: 2回実施)		
 <p>11 住み続けられる まちづくりを</p>	地域清掃活動を行うことにより、住みやすい 環境を維持します。		
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	ごみの分別を推進することにより、つかう責 任として3R推進活動を行います。		
 <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>	本社社屋の照明LED化、電気自動車の 導入することにより、二酸化炭素排出量を 削減することができています。		

外国人技能実習生等の育成・国際交流の実現に向けて

シーデーピージャパン株式会社

1. 取組概要

自社工場(従業員数：100名程)におけるグローバル人材の育成及び国際交流実現に向け日々取り組んでいます。

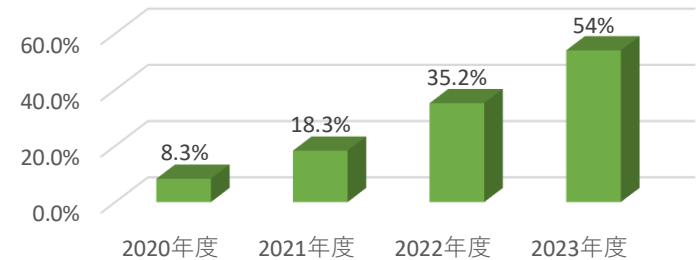
【現在、活躍しているグローバル人材のご紹介】

- ①技能実習生②特定技能③特定活動(28H)
- ④就労制限なしの外国人労働者⑤留学生⑥通訳

【国際交流】

- ①毎週実施の日本語教室
- ②長期休暇時の旅行やお出かけ
- ③お食事会
- ④日本文化にふれ、交流する機会の提供

グローバル人材の人数比率



2. 取組のイメージ

■ ①②技能実習生・特定技能の活用にあたり、監理団体への加入に加え、生活をサポートする部署を設置し、監理団体と生活サポートの2つのグループで安心・安全な実習生活用を実現しております。

■ CDP国際ナショナル協同組合
へ加入・監理業務を実施

■ 貴社(技能実習生)

■ シーデーピージャパン(併が技能実習生の
困りごとを解決！)



組合加入



業務委託

技能実習生の
生活をサポート

安心
安全

■ ④就労制限なしの外国人労働者の活用にあたり、日本人派遣スタッフ様を主に受け入れてらっしゃる企業様へ、優秀な外国人スタッフの活用事例、定着率などのデータを元に、受入れ促進の啓発活動を行っております。

日本文化の交流～花火大会へ参加～



3.取組が開始されたきっかけと経過

人材サービス会社として、グローバル人材の育成や交流の機会を作ることは重要な責務だと考えておりましたが、なかなか育成や交流の機会の作り方が分からず取り組めていませんでした。そこで、他企業様の事例を聞くセミナーに参加し、特に外国人技能実習生の取組について、勉強させて頂きました。当社内に自社工場もある関係で、技能実習生の受け入れから始めることに致しました。まず初めに、新部署(海外人材事業部)の設立を行い、様々な準備をした上で、2021年より技能実習生6名(ベトナム)を無事迎え入れる事が出来ました。当初は、「言葉の壁」や「文化の違い」・「生活ルールや作業の教育」などで苦戦する場面が多々ありました。そこで、解決策としてベトナム通訳の採用や日本語教室の開催はもちろんのこと、特に力を入れたことは、仕事面及び生活面の教育において、写真を使った手法です。言葉だけですと伝わり辛く、理解が難しいと判断し、実習生に教育を行う際は必ず写真を用いて説明し、目と耳から情報を入れるように試みました。その結果、言葉だけの説明時よりも、伝わりやすく、理解をしてもらえるのが早くなりました。また、写真付きの資料であれば、後で分からなくなった際にも見返すことができます。この点が、写真付きの資料の良い点でもあります。それ以外の生活におけるちょっとしたトラブルも海外人材事業部と協力し、迅速な対応を心がけてまいりました。当社も実習生の育成・教育に携わる事で学ぶ事が非常に多く、私達も成長することができました。また、日本の技術習得も大切ですが、日本の文化や街、自然(にも触れて頂きたく、旅行やお出かけ(日光など)、お食事会を企画・実施しています。

5.取組期間

2 年 5 ヶ月

6.応募した取組の今後の計画・展開

① 自社工場での取組みとして、更に、外国人技能実習生の育成をする機会や交流の機会を増やしていきたいと考えております。まず、次年度2024年は、技能実習生(ベトナム)を40名まで受け入れ予定です。更に、2カ国目として、インドネシアの技能実習生の受け入れを考えております。それ以外にも、特定技能者を15名以上の採用や本年同様に国籍関係なく様々な国の人材を受け入れていきます。





② 新たな取組みとして、2021年度に当社で活躍頂いた技能実習生を今度は特定技能者として来日・活躍して頂く機会を作ります。既にベトナムへ帰国している当社の元従業員に、日本語の試験及び技能の試験を受けて頂き、試験合格後、特定技能者として再度迎え入れる為のサポートや仕組みづくりをしていきます。このような取組みをすることで1度きりではなく継続的な交流を図り、お互いのさらなる発展へ繋げていきます。現在は、その他7カ国の方々と生産活動を行っておりますが、様々な国々との交流の機会を増やしていくべく、イベントなどにも参加していき、交流する機会を増やしていきたいと思っております。

③ 当社専門部署(海外人材事業部)のサポート体制をより充実させ、今回の取組をモデルケースに、まずは社内の他事業所へ横展開をしていきます。社内の従業員に対して教育を行い、グローバル人材についての知識や理解を習得し、育成のノウハウ及び交流などを普及していきます。そして、ゆくゆくは、人材サービス会社としてグローバル人材と日本社会をつなぐ橋渡しの役割を担い、様々な国籍の方及び企業様に対し、全力でサポートし、SDGsの目標達成を実現していきます。

4.取組の普及啓発

当社のようにグローバル人材の雇用や実習生の受け入れ・育成・交流などを取組たくてもどのように取り組めばよいのか分からず、1歩が踏み出せずにいる企業様もいらっしゃるかと思います。そこで、当社の専門部署がご支援をさせて頂き、グローバル人材と企業様との橋渡しの役割を担っていきたくと考えております。「言葉の壁」「文化の違い」「育成の仕方」「交流の仕方」など、取り組むにあたっては課題が多いと感じると思いますが、当社の取組を一つのモデルケースとし、ともに課題に対して解決していきたいと考えております。当社としても、更にサポート体制を充実させ、普及活動を推進してまいります。

7 該当するゴール

<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p>グローバル人材の活用によってお互いの国の発展を目指します。</p>		
<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>雇用を拡大して多くグローバル人材に対して雇用機会を増やします。</p>		
<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>日本語の教育・技能や技術習得の機会を作ります</p>		
<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> 	<p>通訳を採用し、言葉の壁・文化の違いを越え、雇用機会を構築します。</p>		

女性活躍推進への取り組み

シーデーピージャパン株式会社

1. 取組概要

人材派遣会社シーデーピージャパンは女性社員のさらなる活躍を推進するため「女性営業職の採用拡大及び女性管理職拡大の方針」を定めました。その結果2016年には第3段階のえるぼし認定を取得しております。

①女性活躍研修の実施

女性のキャリアアップを促進するため、研修や勉強会を定期開催

②育児休業取得後の職場復帰促進の為、従業員の家庭環境や要望に沿った休業取得を可能とし、復帰後も柔軟に勤務体制を選択できる制度を導入

③有給の時間単位取得を可能とした（当時）

④子育て等を優先するために短時間正社員になった者が通常勤務の正社員に復帰できるようサポートを実施

2. 取組のイメージ

①昨年度はアンケート実施後、女性リーダー対象者への外部講師による社内研修及び勉強会を昨年2回実施。

開催概要)

日時：①2022年9月26日（月） 9:00～13:00

②2023年2月22日（水） 13:00～17:00

場所)

オンライン会議（zoom）

対象者)

女性リーダー 11名



女性活躍推進研修

女性の活躍推進企業
シーデーピージャパン株式会社



認定番号
認定年2019年9月24日
橋本労働局長

☆優秀社員表彰式（毎年3月開催）



☆知事と「男女生き活（い）き企業」の県内12社の企業トップとの女性活躍に関する意見交換会



女性活躍をめぐる会合後、横断に広がる福田第一知事（前列中央）と県内企業トップ（2023年9月4日午後4時21分、宇都宮市船橋1丁目の県庁舎、山下誠一撮影）

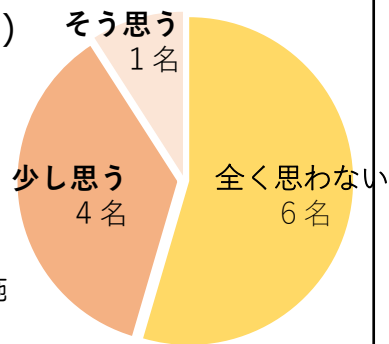
今年も多くの女性社員が表彰されました

3.取組が開始されたきっかけと経過

女性活躍推進研修を実施したきっかけは、管理職以外の女性向けに今後管理職になりたいかアンケートを取ったところ希望者が少なかったためです。（社内対象者11名）

アンケート内容)

マネージャー職になりたいと思いますか？



2022年4月 実施

4.取組の普及啓発

・定期的に社内研修実施

- 1回目) プレアンケート内容についての満足度の感想や同じ役職同志での現職についての意見交換や講話受講後の感想の共有を行いました。
- 2回目) 現職マネージャーの実情や外部講師のキャリア拡大等に関する講話受講後、グループワークで意見交換。課題認識することを目的としました。

5.取組期間

3年0か月（現在取組期間中）

6.応募した取組の今後の計画・展開

現段階)

「真のゴール」への最終目標に向け
「成功するための大切なポイント」取組②



今後の取組)

「成功するための大切なポイント」取組③を
目標とし計画継続中



真のゴール

女性活躍を真に推進するために、女性の自助努力に委ねるだけでなく、管理職、経営層も一体となって組織の風土・環境を変えていく

成功するための大切なポイント

- 1 女性社員（管理職候補者）が「自分達への期待」「あるべき姿」と真正面から向き合いながら、自らの成長に繋がる「マインド」「ナレッジ」「スキル」を習得する
- 2 管理職が「女性活躍推進」というテーマに則して、自らのマネジメント上の課題を認識し、必要な「マインド」「ナレッジ」「スキル」を習得する
- 3 経営層が「女性活躍推進」というテーマに則して、組織の課題を把握し、その解決に取り組みながら風土改革を率先垂範する

7 該当するゴール

 <p>5 ジェンダー平等を 実現しよう</p>	女性社員の意識改革への取り組み		
 <p>8 働きがいも 経済成長も</p>	ライフワークバランスの実現		

ちぎり絵であなたも天才アーティスト～古新聞に新しい命を吹き込んでいます～

新聞ちぎり絵サークル「夢ゆめ」

1.取組概要

古新聞を活用した新聞ちぎり絵の指導や普及活動を実施しており、地域福祉や環境問題、もったいない運動について考えることで青少年育成や文化芸術振興に寄与しています。
また、活動を通して障がいの有無や年齢に関係なく誰もが参加できる居場所づくりを通して、生きがいづくりや健康づくり、健全育成活動にも繋がっています。

2.取組のイメージ



3.取組が開始されたきっかけと経過

自分自身、障害があり、手のリハビリをきっかけにちぎり絵に出会いました。身体のリハビリに加えて自分にできることが見つかったり、自己肯定感を高めたり、趣味と一緒に楽しむ仲間が増えたりと、社会の中に一歩踏む出す機会と居場所を見つけることができ、ちぎり絵を通して社会参加と精神的自立にも繋がっています。今後も、新聞ちぎり絵を通した居場所づくりを広げていきたいと考えています。

4.取組の普及啓発

新聞ちぎり絵の訪問指導で高齢者施設や障がい者施設、認知症カフェ、小学校等で身近な古新聞を活用し、楽しく学べる機会とSDGsを学べる機会を提供しています。

5.取組期間

9年 か月

6.応募した取組の今後の計画・展開

高齢者、障がい者の作品を集めた作品集の制作を行い、定期的な作品展の開催をします。また、新聞ちぎり絵作家として社会的、経済的、精神的に自立できる作家の育成を目指しています。

“持続可能”なとちぎのために（地域により深く根ざし、新たな魅力を発見する）

栃木トヨタ自動車株式会社

1.取組概要

弊社の施設やノウハウと融合することで、栃木県の豊かな魅力を、新たな魅力として再発見していただくことを心がけて、様々な取組みを実施しております。

2.取組のイメージ



3.取組が開始されたきっかけと経過

2021年1月、とちぎSDGs推進企業に登録となり、会社として持続可能な社会へ向けて何ができるのか、社員の意見を聞き入れながら、様々な取組みを行って参りました。2023年度取組みについては、随時社内検討を進め、活動を行っております。

4.取組の普及啓発

自治体のHP、新聞記事、弊社HPやイベントなど

5.取組期間

2年 9か月

6.応募した取組の今後の計画・展開

01.大谷資料館での特別展示会【2022年7月16日・17日】

普段目にするのでできない幻想的な空間と、最新の技術を搭載した自動車が並ぶこの展示会だけの特別なコラボレーションをお楽しみいただきました。2日間で延べ約5,000名がご来場、多くのお客さまに大谷をご堪能いただきました。

〈LEXUS New Experience in OYA〉【2022年7月18日】

栃木を代表するフランス料理店・オトワレストランの洗練された色鮮やかな料理をお召し上がりいただきながら、宇都宮短期大学の皆さまによる演奏、レクサス車の展示もご覧いただくなど、幻想的な雰囲気の中、特別なひと時をお楽しみいただきました。

02.歴代クラウン展示会 in バンバ広場【2022年11月26日・27日】

宇都宮二荒山神社前バンバ広場にて選りすぐりの“歴代クラウン”の展示を行いました。1955年に初の純国産乗用車として登場したクラウンが進化していく姿は、まさに日本の乗用車の歴史そのもの。両日とも、たくさんのお客さまにご来場いただき、クラウンの魅力を存分にご堪能いただきました。

03.「いちご王国・栃木」への協力

A<、「いちご王国・栃木」～とちぎのイチゴを応援しよう～〉【2022年1月15日】

ミナテラスとちぎでは、1月15日の「いちご王国・とちぎの日」に合わせ、いちごをテーマにしたイベントを開催しました。2022年は宇都宮短期大学附属高調理科の生徒の皆さまが考案し、栃木県主催のいちごスイーツコンテストでグランプリ・準グランプリを受賞したいちごスイーツを販売しました。

B<、高校生が作った県産いちご使用のスイーツを配布〉【2022年2月4日・5日】

「いちご王国プロモーション」の一環として、宇都宮短期大学附属高調理科の生徒の皆さまが製作した、県産いちごを使用した焼き菓子を県央地区の店舗でおもてなしとして提供しました。

04. 第36回 宇都宮マラソン大会【2022年11月20日】

宇都宮市清原中央公園にて開催された「第36回 宇都宮マラソン大会」の運営に技術総務車（コースに異常がないかを確認する車両）として、絵画コンクール・ラッピングプリウスを提供。会場内ではいちご王国クラウンを展示しました。

05. とちぎ農産物マーケティング協会主催 「いちごとトマトfestival」【2023年2月5日】

県産トマトといちごの魅力をPRするイベント「いちごとトマトfestival」をミナテラスとちぎにて開催。

2023年度も自動車ディーラーという枠にとらわれず、幅広い活動が行えるよう、取組みを進めて参ります。

7 該当するゴール



自治体と連携し地域活性化イベントの実施



いちご王国プロモーション協賛



地域社会の持続的な発展に貢献

“持続可能”なとちぎのために（より良い社会の実現に向けて）

栃木トヨタ自動車株式会社

1.取組概要

長年、とちぎに生き、とちぎに生かされていることに感謝し、より良い社会の実現に向けて、各種取組みをしています。

2023年度も継続して取組みを進めて参ります。

2.取組のイメージ



3.取組が開始されたきっかけと経過

2021年1月、とちぎSDGs推進企業に登録となり、会社として持続可能な社会へ向けて何ができるのか、社員の意見を聞き入れながら、様々な取組みを行って参りました。2023年度取組みについては、随時社内検討を進め、活動を行っております。

4.取組の普及啓発

自治体のHP、新聞記事、弊社HPやイベントなど

5.取組期間

2年 9か月

6.応募した取組の今後の計画・展開

01.子ども食堂への食品支援品の寄贈【2022年9月2日～30日】

子ども食堂への支援を目的として、お客さま・関係各社の皆さまに向けて食品提供のご協力をお願いし、おかげさまで、約3000点もの支援品をご提供いただきました。ご提供いただいた支援品は、子ども食堂運営団体に寄贈させていただきました。10月8日には、ミナテラスとちぎにて「歌う海賊団ッ!」と皆さんとともに啓発イベントを開催しました。

02.下野奨学会への寄付【2022年4月4日】

県内の高校生の就学資金を援助する下野奨学会にて、弊社は2014年より特別奨学金として「栃木トヨタ自動車基金」を創設し、毎年、奨学生に対し高校入学準備金を給付しています。

03.内閣府主催「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」地域シンポジウムに参加【2022年1月29日】

内閣府主催「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」地域シンポジウムにおいて、女性活躍推進に取組む県内企業の経営者として、弊社社長の新井が参加し、「女性活躍推進における組織トップの役割」をテーマとした意見交換や弊社の取組みについて紹介しました。

04.宇都宮市「もったいない運動」感謝状贈呈式【2022年10月26日】

宇都宮市・宇都宮市もったいない運動市民会議が取組む「燃えるゴミ削減運動」に貢献したとして、感謝状を贈呈いただきました。

05.とちぎ安心医療基金への寄付





慢性的な医師不足の解消や、地域の医療機関の充実に役立てていただくこと、2014年より寄付を行っています。「学生を対象とした職業体験」「若手医師の研修支援」「初期臨床研修医の研修」の3つを軸とした活動への支援を通じて、地元の医療活動に協力しています。

06.幼児向け交通安全教材の配布【2022年4月】

トヨタ自動車を実施する交通安全キャンペーンの一環として、県内の幼稚園・保育園・認定こども園の園児を対象に、毎年4月に幼児向け交通安全教材として絵本を配布しています。

2023年度も自動車ディーラーという枠にとらわれず、幅広い活動が行えるよう、取組みを進めて参ります。

7 該当するゴール

 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>下野奨学会への寄付 とちぎ安心医療基金への寄付</p>		
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>下野奨学会への寄付 幼児向け交通安全教材の配布</p>		
 <p>1 貧困をなくそう</p>	<p>子ども食堂への食品支援品の寄贈</p>		
 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>内閣府主催「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」地域シンポジウムに参加</p>		

“持続可能”なとちぎのために(防災“もしも”に備えて被害を最小限に)

栃木トヨタ自動車株式会社

1.取組概要

クルマ屋だからこそできる防災や減災があると考えております。
万が一を想定して、可能な準備や地域の方へのご案内を続けています。
合わせて、カーボンニュートラルに向け緑化活動に取り組んでおります。

2.取組のイメージ



3.取組が開始されたきっかけと経過

2021年1月、とちぎSDGs推進企業に登録となり、会社として持続可能な社会へ向けて何ができるのか、社員の意見を聞き入れながら、防災については、以下の様々な取組みを行って参りました。
2023年度取組みについては、随時社内検討を進め、活動を行っております。

4.取組の普及啓発

自治体のHP、新聞記事、弊社HPやイベントなど

5.取組期間

2年 9か月

6.応募した取組の今後の計画・展開

01. ミナテラスとちぎ 防災フェア2022【2022年11月12日】

ミナテラスとちぎにおける防災フェアでは、親子で防災について楽しく学べるよう、たくさんのコンテンツを設けました。クルマ給電ブースではお湯を沸かす実演に加え、防災食試食コーナーを設置。「クルマから電気を供給できるのを初めて知った」「防災食を食べてみるのは初めて」という声も多く、非常時の備えについて身近に感じていただくきっかけとなったようです。

02. 栃木県内トヨタ系5社と宇都宮市・佐野市との災害協定を締結【2022年11月11日、2023年1月11日】

栃木県内トヨタ系5社は、宇都宮市・佐野市と災害協定を締結しました。災害による停電が発生した際に、市の要請に応じて避難所などに外部給電可能な車両を提供し、円滑な災害応急対策に協力します。2022年11月に佐野市役所にて金子市長と、2023年1月には宇都宮市役所にて佐藤市長と5社を代表して弊社が締結式に出席し、協定書を交わしました。なお、協定は小山市、栃木市、足利市とも締結しています。

03. 宇都宮大学「CRD防災キャンプ」に給電車両を出展【2022年9月27日】

宇都宮大学地域デザイン科学部附属地域デザインセンター主催「CRD防災キャンプ」に参加しました。大学・自治体・民間企業がそれぞれの立場でコンテンツを持ち寄る学びの場となり、弊社は新型シエンタで給電デモンストレーションを実施しました。

04. 宇都宮大学地域デザインセンター「地域防災部門」設立記念シンポジウムに参加【2022年12月9日】

このシンポジウムは地元自治体などと連携した調査研究や実践事例をもとに、多主体連携による災害リスク対策の今後について考えることを目的としており、弊社のブースでは、非常時におけるクルマ給電の役割や実際の災害時における事例などをお伝えしました。

05. 店舗における防災イベント【2022年9月17日・18日】

9月17日栃木店、18日佐野店にて、防災イベントを実施しました。このイベントは、台風19号での被災をきっかけに、地域の皆さまに万が一の備えについて考えていただこうと、2020年より開催しています。クルマ給電のデモンストレーションではお湯を沸かしたり、炊飯器を使用してお米を炊くなどの実演を行いました。

カーボンニュートラルに向けた

06. 「栃木トヨタの森」への取組み【2022年6月23日】

弊社はカーボンニュートラルの取組みの一環として、栃木県と森づくりに関する協定を締結しました。弊社のルートとも言える那須烏山市において、那珂川国民休養地内の一画を「栃木トヨタの森」とし、森林保全活動を通じてカーボンニュートラルに貢献することに加え、地元の皆様の憩いの場として活用いただけるように整備をしております。

2023年度も自動車ディーラーという枠にとらわれず、幅広い活動が行えるよう、取組みを進めて参ります。

7 該当するゴール



自治体と連携した防災への取組み
防災イベントの定期的な実施



ハイブリッド車からの給電
太陽光発電設備の設置



ハイブリッド車からの給電



栃木県県有地「栃木トヨタの森」維持
管理

幼稚園・保育園・小学校訪問

株式会社栃木ブレックス

1.取組概要

チアリーダー・BREXYやバスケットボールスクールコーチ、マスコット#028ブレッキーが栃木県内の幼稚園や保育園・小学校を訪問し、子どもたちと一緒にチアダンス体験やバスケットボール体験を実施しています。1年度内であれば、各園・学校に無料で訪問しています。また、小学校訪問ではフタバ食品様のご協力のもと、食育活動にも取り組んでいます。

2.取組のイメージ



3.取組が開始されたきっかけと経過

県内の子どもたちにバスケットボールやチアダンスを通して、スポーツの楽しさや素晴らしさを体験してもらおうきっかけ作りとして開始しました。幼稚園・保育園訪問は当初、チアダンス体験のみだった為、年々増加する申込の受け入れが厳しくなりました。そこで4～6歳でもできるボール遊びから最後にはシュート体験も行う取り組みを増やすことで、受け入れ可能な件数を増やす事ができました。小学校訪問も無償で行っていましたが、今年からフタバ食品様の協賛もあり、今後長期的に継続可能な取り組みとなりました。

4.取組の普及啓発

毎年度初めに栃木県幼稚園連合会や宇都宮市教育委員会へ各園・学校への周知協力の依頼をしています。また訪問後には弊クラブの公式SNSで活動報告を発信しています。

5.取組期間

14年 か月

6.応募した取組の今後の計画・展開

申込は宇都宮市が中心ですので、宇都宮市以外の市町にももっと普及できるようにしていきます。その為の一環として県内の市町との包括連携協定を進めています。
宇都宮ブレックスというバスケットボールチームを知ってもらいつつ、プロのチアリーダーやコーチから直接教わることで、スポーツに興味も持ってもらえるように今後も継続的に取り組んでいきたいと思えます。

7 該当するゴール



スポーツを通して心も体も健康になること
目的をしています。



子どもたちにプロのチアリーダーやコーチから
指導してもらえる機会を創出しています。



企業と協力することでより広く持続可能な
取り組みにしていきます。

リビングSDGsプロジェクト「足尾緑化体験」

株式会社栃木リビング新聞社

1.取組概要

「自然環境を大切にする心の醸成」「循環型社会の実現に向けた環境イベント」をテーマに、毎年、リビング読者とともに公害の原点といわれる地元、栃木県“足尾”の地へ赴き、コナラやカエデなどの苗木を参加者一人ひとり自らの手で植える活動「足尾緑化体験」を行っています。植樹体験だけでなく、地元・NPO法人のスタッフより足尾の歴史、植樹活動の変遷などのお話を聞きながら、環境問題、植樹の意義などについても理解を深める機会としています。このイベントを「親子のコミュニケーションを深める機会」としても位置付け、読者向けに呼びかけています。

2.取組のイメージ



3.取組が開始されたきっかけと経過

女性を中心としたファミリー層向けに暮らしに役立つ情報を届ける生活情報紙「リビングとちぎ」を発行するメディアとして、「自然環境を大切に作る心の醸成」「循環型社会の実現に向けた環境イベント」「家族のコミュニケーションを深める」をテーマに、公害の原点といわれる地元、栃木県“足尾”で読者参加型のイベントとして植樹活動を企画、「足尾緑化体験」として2006年からスタート。当活動にご賛同頂いた地元企業の皆様のご協力も賜りながら、毎年恒例の読者参加型の環境イベントとして、年1回、足尾の歴史を学んだり、苗木を植えたりする活動を行っています。

5.取組期間

17 年



4.取組の普及啓発

異常気象や地球温暖化などが問題となり、環境変動への対策に関心が高まる今、世界全体で取り組むべき「SDGs」の観点、そして栃木県や宇都宮市が掲げる「SDGs活動」の趣旨においても意義ある活動と捉え、発行メディア「リビングとちぎ」や運営サイト「リビング栃木Web」でのイベント周知、また、webサイト上に「足尾緑化体験」バナーを張り、結果報告などを通して、読者や参加者だけでなく、一般市民、県民、県外の多くの方へも広く情報を拡散し、活動意義を呼びかけています。公式SNSでの発信や、イベントチラシを作って地域企業の社員向け案内に活用頂くなども行っています。

6.応募した取組の今後の計画・展開

18回目を迎える今年は「栃木県誕生150年」記念の年にちなみ、その協賛事業として仕立て、植樹体験のほか、栃木県ゆかりの“栃の実”を使ったクラフト体験（とち笛づくり）や、公害で廃村となった旧松木村の見学と地元NPO法人スタッフによる解説などのコンテンツも盛り込み、10月に実施予定です。今後も、19回、20回と継続して活動する予定です。より多くの読者に環境問題、足尾の自然、植樹活動ということに関心を持ってもらえるよう、企画・実施していきます。

7 該当するゴール

 <p>15 緑の豊かさも守ろう</p>	足尾エリアの植樹地に参加者一人ひとりが苗木を植えて、緑化活動に貢献しています		
 <p>17 パートナースHIPで目標を達成しよう</p>	地域企業・団体・教育機関等へもイベント協賛や協力を呼びかけ、各社員や学生の参加促進やイベント案内チラシの設置などを通して共に環境活動を推進しています		

AIフィットネスアプリ「ODOLL」で健康づくりの推進

ならでわ株式会社

1. 取組概要

AI/アプリ開発のならでわ株式会社では、AIフィットネスアプリ「ODOLL」を2022年12月にリリースしました。世の中の的に「フィットネス」は、キツイ・ツライ・めんどくさいというイメージを変え“毎日の楽しみ”にしていきます。また開発を進めるにあたり、まずは社内から変えていくことで、自分たちもユーザー様と同じ目線、同じ気持ちをトライしています。そして社内からは既に体重が-10kg近く減り、BMIが正常になったなどの事例も出てきています。その他、本アプリをApp Storeに公開してから複数の企業や大学病院関係の方々からご連絡をいただき、例えば糖尿病改善に向けた研究などがスタートしています。今後はフィットネス以外に、運動療法にも利活用できるプロダクトにすることや、健康経営を目指す法人利用、市町村単位で行う健康改善プログラムなどにも活用できる形にアップデートしていきます。

2. 取組のイメージ



3.取組が開始されたきっかけと経過

コロナ禍において、外出自粛・リモート勤務・WEBミーティングなどにより行動量が一気に減ったことでほとんどの社員が運動不足になりました。そんな中、一部の社員はYoutubeを見ながら家でフィットネスをやっているが継続が出来ない…という話から自社のAI技術を活用し、ゲーム要素を取り入れたフィットネスで楽しく、かつちゃんと効果が出るフィットネスアプリを開発するのはどうか？と女性社員が中心となって開発が始まりました。動画を見るだけのフィットネスを嫌い、自分の動きをリアルタイムにAIが判定します。見本と同じ動きが出来たら運動回数を数えてくれるのと合わせて、どれくらい上手くできたのかをGreatやGoodなど表示され、更には運動後には採点(スコア化)とどの筋肉が鍛えられたか可視化できるようにしたことで、無我夢中に楽しめて効果が期待できるフィットネスアプリとなりました。

5.取組期間

10か月

6.応募した取組の今後の計画・展開

現在、BtoC向けになっているODOLLのBtoB版(健康経営企業向け)にカスタマイズして、法人でも導入できるものにしていきます。またフィットネス領域からヘルスケア領域までカバーできるよう、大学病院などと連携し、DTx(デジタル医療)分野に参入します。DTxでは①運動療法としての利活用、②リハビリでの利活用、の大きく分けて2つの分野で展開していきます。いずれの分野も現在の超高齢化社会において喫緊の課題であり、寝たきりになってしまう人を減らすことでヤングケアセラーや老々介護の方々の負担を少しでも減らせる社会を目指していきます。

また本アプリでの改善結果(エビデンス)から、こういった属性の人に、どのような運動/リハビリを、どれくらいの期間やることで改善できる可能性があるのか。統計データから見えてくる最も効果のある治療方法(ゴールドスタンダード)の確立にも寄与していき、日本のみならず全世界の人々に向けて、どこにいても正確な医療情報が手に入る、改善に向けた活動が誰でも出来る社会をつくっていきます。

4.取組の普及啓発

フィットネス関連のインフルエンサーとコラボし、Instagramなどを中心に普及啓発活動を行っております。

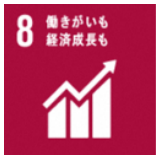
またオフラインでの普及活動としては、東京ビックサイトなどで行われる展示会(直近ではSPORTEC)に出展や県内ではショッピングセンターの催事スペースなどでイベントを行っております。

その他、栃木県庁が主催しているシーズンズピッチ研究会にて発表を行い、県内の大学病院などと協議を開始しています。

7 該当するゴール



「ODOLL」をAppStoreにて公開し、イベントなどの出展などを通じて普及啓発に努めております。(R4年度実施)



法人向け「ODOLL」アプリを開発し、健康経営・ウェルビーイング経営の実践サポートをしていきます。



「ODOLL」アプリを通じて健康意識を高め、車/交通機関移動から最もエコな徒歩という選択肢が出るマインドに変えていきます。



「ODOLL」アプリにて行われたフィットネスデータ×改善結果の統計データにてゴールスタンダードの確立をしていきます。

未定

株式会社マルゼン

1.取組概要

株式会社マルゼンは寝具を中心とした繊維製品の製造をしている会社です。私ども主力の原材料は生地、ポリエステル綿、羽毛、ウレタンなど様々ですが、当社ではカーボンニュートラルに貢献すべく、ポリエステルの再生原料を使用することに取り組んでいます。ポリエステル綿は掛布団、枕、クッションなどに使われています。ポリエステルの原料はポリエステルですから石油製品となります。もちろん、寝具を処分すると燃やせば石油由来ですから、真っ黒な煙を出して、二酸化炭素を排出するわけです。最近ではその原料もペットボトルペレットから作り出すこともありますが、まだ完全なリサイクルではありません。当社はそのリサイクルをSDGsの観点から、海岸沿い打ち上げられているペットボトルのごみやプラスチックごみを拾い集めて、そのごみからポリエステル綿を作り出す海外の会社から輸入して、海洋ごみリサイクル綿で寝具、クッションを作り、SDGs寝具として広めていきたいと考えております。

2.取組のイメージ

海洋プラスチック問題のクローズアップ

- 2019年6月に開催されたG20大阪サミットにて「2050年までに海洋プラスチックごみゼロ」を目標とした。

内閣府の「環境問題に関する世論調査(対象18歳以上の男女1,667人)」では、実に89%の方が海洋汚染などのプラスチックごみ問題に関心があると答えた。そのうち、22.9%の方は従来品よりも多少高くても購入すると答えている。

国連のSDGs「持続可能な開発目標」においても、2025年までに「海洋ごみを減らし、海洋汚染を大幅に削減する」事が目標の一つとして掲げられている。



海洋資源を守るため、世界規模で様々な取組が開始されている。

海洋プラスチック問題のクローズアップ



環境への配慮～今すぐ取り組めるサステナブル～ 海洋プラスチックの削減

- お客様が商品1枚を手にとることで、海洋プラスチックごみ削減を実感。例えば、掛けふとん1枚に1.5kgの繊維が使用されている場合、ペットボトル約52.5本の海洋プラスチックごみ削減に貢献、(1kg=約35本)



寝具類において1つの商品に使用される原料が多いからこそ、手にとるお客様が、地球環境に大きく貢献できるポテンシャルを秘めている。

海洋ごみのリサイクルポリエステル綿生産工程

- Plastic BankとADVANSAの提携により誕生したポリエステル綿。
- Plastic Bankとは、「海洋プラスチックの削減と貧困の削減」に取り組む団体。沿岸国の貧困層の方々に海洋プラスチックを回収してもらい、「海洋プラスチックの削減」生活必要資材、食料や教育に使用できるデジタル通貨と交換する「貧困の削減」。



環境への配慮～今すぐ取り組めるサステナブル～ 貧困層への援助



SDGsに向けた取組

「持続可能な社会の実現」持続可能な社会の実現のために2015年に制定されたSustainable Development Goals(持続可能な開発目標)、特にSDGs 17の開発目標に対して各企業が様々な取組を行っており、SDGsの課題への取組が企業に求められる基準となっており、SDGsの達成に貢献しています。

ADVANSA社Supprelle™blueとのコラボレーションにより、SDGs 3つの目標への取組が可能となります。



3.取組が開始されたきっかけと経過

2022年8月頃、取引先の紹介で海洋ごみからポリエステル綿を作り出している団体があることをお聞きして、それはプラスチックバンクというところで貧困者に対して海岸に打ち寄せられているペットボトルを拾い集めている団体だと聞きました。そこからその拾い集めたペットボトルから再生ポリエステル綿を作るメーカーがヨーロッパにあることをお聞きして、是非当社でも取り組みたいと考えていました。その綿は当時は日本で誰も使われてないことをお聞きして、それならばと当初サンプルを輸入して、本当に綿になるのかの確認をして、十分に寝具やクッションの材料として使えることを確認し、この材料を輸入することにしました。この材料は十分にSDG s 的な材料であること、寝具メーカーとしてこうした材料を使うことがメーカーの責任になると思い、嫡子しました。現状の原料より、高額なのは仕方ないがこの材料を広めることがSDG s な企業活動であると信じて、製品化して売り込んでいくところです。このポリエステル綿はドイツのメーカー（アドバンス社）が綿を作りその代理店である野村貿易からこの、この再生プラスチック綿（アドバンスブルー）の輸入をしています。

5.取組期間

1年 1か月

6.応募した取組の今後の計画・展開

去年は初めて、エコプロ（日本経済新聞主催）に挑戦して、話を聞いてくれる機会は得ましたが、現実的にはコロナ期間でもあり、具体的な商談には結びつきませんでした。ようやくこの綿の評価も出てきており、商談の機会を得るチャンスも増えてきました。しかしながら、まだまだ、営業活動が足りないと考えています。そのため、普及のため展示会やこのようなSDG s 関係にチャレンジすることが普及につながると考えています。もともとはこの綿はホテル関係の寝具材料として計画をしており、この綿をホテル寝具として使うことがそのホテルのSDG s な取り組みになりますと普及をしております。具体的にその狙いには達しておらず、インテリアショップや家具店の中で海洋プラスチック再生製品であることPRしていただいておりますが、現在、ホテル関係からの見積もり依頼は数件ありますが、具体的に納入実績はありません。現在外国からの旅行者も増えて、ホテルも活発に動き出してきており、今後こうしたSDG s 的な寝具がホテルの需要に必ずマッチすると考えており、ホテル関係の展示会などに参加して、普及に努めたいと考えています。また、現在海外からの日本の寝具に対する見方が変化しており、今までは中国の安価な寝具に飛びついてきたお客様も日本の寝具の見直しがされており、今後海外からの需要も増えると考えており、チャンスがあれば、是非海外でもこのSDG s な綿の普及をしたいと考えているところです。とにかく、このスープレールブルーという綿を日本で製造販売している会社は当社しかなく、当社のこのスープレールブルーの製品は海外の貧困者の生活の糧になっていること、カーボンニュートラルな製品であること、大切な海を守っていることをPRしながら、販売に結び付けたいと考えています。

4.取組の普及啓発

2022年12月にエコプロという環境とSDG s の普及の展示会が東京ビックサイトでありました。当社はこの展示会に出展をしました。もちろん、販売普及目的で参加をしました。業界仲間からは評価は高いものの、コロナでもあり、さほど成果が上がるものではありませんでしたが、そのあとは地道に営業活動により、クッションなどで採用がはじめて、現在7～8社程度ですが取り上げていただいているところです。しかしながら、まだまだ大きなビジネスにはつながっておらず普及には至ってないと考えております。

7 該当するゴール



貧困層への援助 貧困層にプラスチックを拾うことが仕事になる仕組みを作っている団体があり、当社はその原料を海外から調達して積極的に製品化することで貧困者の支援になると考えている。



繊維製品を製造するメーカーとして、こうした海洋ごみプラスチックリサイクル原料を使う責任があると考えている。これがカーボンニュートラルにもなる。



海洋プラスチックを拾い集めることで、海洋生物の環境を守ることに加え、海のプラスチックごみを減らすことで豊かな海を守ることになると考えている。

既存の縁（自治会のメンバー）を発展させて始めた、子ども食堂

宮っこ支援センターSAKURa

1.取組概要

大曾西町自治会のサロン活動運営メンバーが子ども食堂をはじめ、運営しています。コロナ禍の中で、これまで地域の天王祭での神輿担ぎなどがなくなり、地域の子どもの様子が見えなくなってきました。登下校の見守りの中でもマスクで顔が見えず、飛沫の影響で挨拶もし辛いという環境が続き、地域にどのような子どもたちがいるのか把握できなくなっていました。サロン活動は地域で一人暮らししている高齢者の居場所として喜ばれているので、見えなくなってきた子どもたちにとっても、地域の居場所が必要ではないかと考え、問題を共有できたサロン運営メンバーが新しく会を立ち上げ、既存の自治会範囲に留まらない、地域全体の子どもたちの居場所づくりのための、子ども食堂をはじめ、運営しています。会員には自治会長、民生委員、福祉協力員、保護司など福祉ボランティア活動に携わる人達が関わってくれています。

2.取組のイメージ



3.取組が開始されたきっかけと経過

コロナ禍の中で、これまで地域の天王祭での神輿担ぎなどがなくなり、地域の子どもの様子が見えなくなってきました。登下校の見守りの中でもマスクで顔が見えず、飛沫の影響で挨拶もし辛いという環境が続き、地域にどのような子どもたちがいるのか把握できなくなっていました。

地域で孤立する子育て世帯も増えてきていると知り、子どもの居場所を作って、地域で子育てを支援できればと思っています。

4.取組の普及啓発

InstagramやフェイスブックなどのSNSで逐一開催報告を実施しています。各SNSの総フォロワー数は1200を超えています。市内のボランティアセンターや宇都宮大学、会場近くの高校にボランティア募集のちらしをおいてもらったり、掲示してもらっている。大曾西町自治会と近隣小学校、中学校の全校生徒に利用案内のちらしを配布した。また、下野新聞に活動が掲載されたり、ミヤラジに出演したりしている。

5.取組期間

0年 10か月






6.応募した取組の今後の計画・展開

現在、さまざまな地域のボランティアや寄附者が取り組みを支援してくださっています。また地域の企業様からのご支援もあつまってきており、自治会の子供会でになってきた季節のイベントの開催や食育などの学びの場を子どもの居場所を通じて、子どもたちに提供していきたいと思っています。地域の多様な方々を巻き込みながら、地域全体で子育てをする機運の醸成を図ってきたいです。食支援を通じて、居場所を利用してもらい、出会った支援が必要な家庭には地域から集められた食品ロスを中心とした食品提供の支援や、学習支援、相談支援をこれから発展させていきたいと思っています。

そうした支援の取り組みを増やしていくことで、関わってくれる方々も自然と増えていき、そうした機運が高められるのではと期待しております。

宇都宮市内の子どもたちが誰一人とりこぼされない社会づくりに少しでも協力していきたいと思っています。

7 該当するゴール

 <p>1 貧困をなくそう</p>	<p>食事提供と困窮家庭に対する食料支援・相談支援を実施しています。</p>	 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>個人、企業や農家さん、お寺などから継続的な食品寄付を受けたり、食育講座、みそづくり教室などを開催してもらっています。</p>
 <p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>月に2回、子どもたちに無料で食事提供しています。</p>	 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>ボランティア参加者も多く、毎回10以上が参加して、多い時は20名を超えています。多様な方々が関わってくれる居場所づくりを推進していきます。</p>
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>会場には学校で使っている教科書や自習用の問題集、学習用端末を揃え、無料で利用できるようにしています。</p>	 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>企業からフードロス食品を受け入れ、利用者に配布している。</p>
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>安心できる居場所を提供することで子育て世帯の孤立をふせぎ、安心できる子育て地域づくりに貢献します。</p>		

高齢者向け文化教室の開催

株式会社みやもと

1.取組概要

当社で発行する「超高齢化社会と向き合う」をテーマとしている高齢者向け情報紙『ヒビコレうつのみや』が主催する『ヒビコレ文化教室』。「何か趣味を持ちたい」「新しいことを始めてみたい」と言った高齢者の声から始めた教室。「始めたいけど、毎回参加は難しいかも…」との方にも、その都度お申込み出来る気軽な教室。講師にアシスタントスタッフがフォロー＆サポート。初心者もリピーターもフレンドリーにリラックスした雰囲気大切に開催しています。現在は『遊び筆文字教室』『金継ぎ体験教室』『初心者写真教室』を実施しています。

2.取組のイメージ



遊び筆文字教室

文字を感じるままに描く。
自由で楽しい筆文字

[もっと見る](#)



金継ぎ体験教室

大切な器を伝統技術で甦らせる

[もっと見る](#)



初心者写真教室

プロカメラマンに「ゼロ」から教わる

[もっと見る](#)



3.取組が開始されたきっかけと経過

当社で発行しているシニア向け情報誌『ヒビコレうつのみや』（旧シニア通信）の、コミュニケーションのイベントとして各教室単独不定期にて開催していましたが「スキルアップに定期的に開催して欲しい」「他の教室にも参加したい」「バスで行けるところにして欲しい」などのご要望に応えるために『遊び筆文字教室』『金継ぎ体験教室』『初心者写真教室』の各セミナーを同日同所にて開催。また車の運転が出来ない方でも参加出来る事と、街の賑わい創出も目指し、オリオン通り「ACぷらざ」にて合同開催しています。
当初は無料で開催していましたが、会場費・材料費・講師費用など継続的な活動にする為に最低限の費用を頂いています。

4.取組の普及啓発

当媒体『ヒビコレうつのみや』紙面、Webサイトでの告知。
オリオン通りの開催なので、見学者も訪れます。

5.取組期間

以前から 約3年

6.応募した取組の今後の計画・展開

毎月の継続的開催、と11月には、参加者の作品発表の場として「ヒビコレ文化祭」としてスケールアップ開催の予定です。
また、歴史教室など、他のコンテンツも検討中です。

株式会社LINKS

1.取組概要

当社の事業理念は主として、社会課題を解決しながら美容と健康を提供する会社です。まず私達が取り組んでいる事業は健康食品事業となります。当健康食品事業の商品であるHOBICHA（ほう美茶）は、農家さんのヒアリングに伴い、ほうれん草の廃棄の現状に着目し開発しました。スーパーや小売等では野菜の規格基準があり、背が伸びすぎてしまったほうれん草や、茎部が変形してしまった物は廃棄される事が一般的です。私たちは、本来捨てられてしまう未利用品のほうれん草を買い取り、健康食品（青汁）にアップサイクルする事により、フードロス削減や一次産業の収益向上をはじめ、幅広い年代に好まれるような青汁を届けることにより、「資源の根底を見直し、限りある資源を有効活用する。」という事を基軸に、循環型社会に寄与しております。

2.取組のイメージ

製品を通した社会的課題解決へのアスローチ



3.取組が開始されたきっかけと経過

【経緯】私たちは、元々建築関係の営業職をしており、車の移動が多「SDGs」についてのラジオをよく聞いておりました。たまたま信号待ちをしていると、道路に面した農家さんが、育てたネギを潰してる光景が飛び込み、理由を聞いてみる事にしました。そこでは今はネギが豊作で値段がつかなく、収穫するだけ赤字になってしまうから潰してたと聞きました。飢餓に苦しむ人もおり、食料自給率、フードロス の話題も取り沙汰されている中、何か自分達に出来ないかと思い、HOBICHA の開発に至りました。【難点】規格基準街のほうれん草の加工が難しく、また、大量に加工できる会社が近県で見つからなかったこと。【克服した経緯】数十社に連絡をとり断られることがほとんどであったが、当社のSDGsの取り組みに関心を持っていただいた業者が協力していただけるとのお話をくださり、製品化に成功しました。

5.取組期間

1年 6か月

4.取組の普及啓発

自社商品
未利用品のほうれん草を買い取り、主原料とした商品の開発及び販売。左記パッケージにおいてFSC認証紙を採用。

講演実績
某小売最大手I社にて「SDGs」についての講和をしました。

協力企業とのイベント
上記、I社だけでなく、インフラ系P社におけるSDGsに関連した複数社による合同イベントの実績あり。

6.応募した取組の今後の計画・展開







(1) 自社ECショップにて購入していただいたお客様に推定のフードロス削減量に応じた「エシカルポイント」を付与し、消費者がどれだけフードロス削減に寄与したかを「見える化」し、ポイントを付与したいと考えております。また、エシカルポイントのスキームが出来次第、弊社と同じ思いの企業と連携し、各協力店でエシカルポイントを使えるように提携依頼を打診していく予定です。

(2) SDGsの概念を踏まえた商品開発は多くの企業様などにも注目していただいております。弊社のような資本の少ない会社でも、身近な事例からSDGsの課題解決事項を取り入れ商品化に至る事ができました。このことから、SDGsの課題解決は身近なことから実施できるということを講和を通し啓発できればと考えております。

(3) 現在開発中の「導入美容液」はジェンダーレスにフォーカスし開発を行っているため、性別を問わない化粧品の普及を促進いたします。左記化粧品を普及させる事により、「ジェンダー平等を実現しよう」というSDGsの目標に対しアテンドできることや、商品普及による課題解決の提起にも寄与できると考えております。

(4) 今はまだ資本が少ない会社ですが、今後は多様な人材を積極採用し、人種や学歴などの障壁がない企業へと成長して参ります。

7 該当するゴール

 <p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>協力企業へほうれん草粉末原料の無償提供をし飢餓問題に寄与しました。</p>	 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>男性、中性、女性が使える「導入美容液」を開発。※10月上旬発売開始。</p>
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>無添加にこだわり、幅広い年代が求める、「腸内環境」に特化した商品の販売</p>		
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>従来捨てられてしまうほうれん草をアップサイクルする事によりフードロス削減に寄与しています。</p>		
 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>FSC認証紙を積極的に採用することで、持続可能な森林の利用と保護を図る。</p>		
 <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>	<p>定期的に業種の垣根を超えたSDGs推進企業や団体等と共同イベントの開催を実施することで、パートナーシップの強化推進を図っています。</p>		